

令和2年度第3回川崎市政策評価審査委員会

日 時 令和3年3月15日(月) 午後3時00分～午後4時47分

場 所 川崎市役所第3庁舎5階 企画調整課会議室

出席者 委員 川崎委員長、松井副委員長、岩崎委員、久野委員、高尾委員、田島委員
星川委員、三田委員、米林委員

市側 宮崎総務企画局都市政策部長
神山総務企画局都市政策部企画調整課長
山井総務企画局都市政策部企画調整課担当課長
岸総務企画局都市政策部企画調整課担当課長
森総務企画局都市政策部企画調整課担当課長
吉永総務企画局行政改革マネジメント推進室担当課長
小沢財政局財政部財政課担当課長

次第 1 議題

(1) 川崎市政策評価審査委員会の審議結果を踏まえた今後の対応方針等と市民意見募集の結果について

2 その他

公開及び非公開の別 公開

傍聴者 1名

議事

森総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

定刻になりましたので、ただいまから、令和2年度第3回川崎市政策評価審査委員会を開催いたします。

私は、企画調整課の森でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、本日の委員会につきましては、一部テレビ会議により実施しており、川崎委員長、松井副委員長、田島委員におかれましては、テレビ会議によりご出席いただいております。

本日は主に、昨年7月の委員会で皆様からいただいたご意見について、今後どのように対応していくのか、市の考え方をご報告するとともに、第2期実施計画の中間評価に関する審議を通した委員会の運営方法などを含め、全体を通したこの間のご感想やご意見をいただきたいと考えております。委員会の終了時刻は16時頃を予定しております。

次に、会議の公開、非公開についてでございますが、本日の委員会は公開とさせていただいており、傍聴を許可しておりますこと、また、議事録作成のため会議中に録音することにつきまして、あらかじめご了承くださいと存じます。よろしくお願いいたします。

次に、本日配付の資料確認をさせていただきます。上から順番に、次第、名簿、座席表。右上の資料番号でございますが、資料1、第2期実施計画中間評価に関する委員会の経過。資料2、川崎市政策評価審査委

員会の審議結果を踏まえた今後の対応方針。資料3、川崎市政策評価審査委員会から今後の進捗状況を十分に注視していく必要があるとされた施策の「今後の取組の方向性」について。資料4、第3期実施計画策定に向けた対応。資料5、「川崎市総合計画」第2期実施計画中間評価結果に対する市民意見募集の結果について。参考資料といたしまして、参考資料1、川崎市政策評価審査委員会と表記のあるもの。別添資料といたしまして、机の上に配付してございますが、川崎市総合計画第2期実施計画の冊子と、同じく冊子で、「川崎市総合計画」第2期実施計画中間評価結果でございます。不足等がございましたら、事務局までお声かけをお願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、次第に従いまして議事に入らせていただきたいと思います。

ここからは、委員長に議事進行をお願いしたいと存じます。

川崎委員長、よろしくお願いいたします。

川崎委員長

それでは、早速、議事のほうを進めてまいります。

議事の1、川崎市政策評価審査委員会の審議結果を踏まえた今後の対応方針等と市民意見募集の結果についてということで、事務局のほうから説明をよろしくお願いいたします。

事務局

(資料1～5の内容に沿って説明)

川崎委員長

ありがとうございます。

これから議論に入りたいと思いますが、本日、私も含めて、オンラインでの参加の方もいらっしゃいますので、発言の際には挙手していただき、私から指名させていただいた上で、発言していただくという形式でお願いいたします。また、議事録を作成する関係で、発言者の方は、大変申し訳ありませんが、お名前をおっしゃっていただいてから発言していただくと助かります。

それでは、事務局からの説明に対する意見を頂戴したいと思います。内容としては、大きく二つあったかと思います。一つは、部会で議論をさせていただいた個別の施策に対する部分と、もう一つは、全体総括として、昨年の7月に、幾つか今後の課題と言いますか、政策提言のようなことを少し盛り込んだところに対する部分に関してでした。

まずは、部会で個別に議論をさせていただいた施策についての対応について、ご意見、ご質問等がございましたら、ご発言をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

久野委員

私たちは、第3部会で、四つの施策について議論をさせていただきました。一つ目が、「ベンチャー支援、起業・創業の促進」、二つ目が、「ICT（情報通信技術）の活用による市民利便性の向上」、三つ目が、「音楽や映像のまちづくりの推進」、四つ目が、「迅速で的確な広報・広聴と市民に開かれた情報共有の推進」ということでしたが、いずれも、先ほど事務局から説明のあった、今後の対応方針については、よく整理されているなというふうに思いました。

我々の部会で議論した施策は、ほとんどの成果指標の指標達成度が「a」で、唯一、若干これからというのが、「音楽や映像のまちづくりの推進」ということではありましたが、「ベンチャー支援、起業・創業の促進」では、起業支援による年間市内起業件数が目標をはるかに超えており、かわさき新産業創造センター

の入居率についても目標を超えているという状況でした。これはおそらく、今、大変ドラスティックな時代の変革が起きている中で、情報通信と言いますか、IT、IoT、ICT、AIなどの分野では、今、全国的に非常に起業が多く、盛んになっているということだと思います。ただ、それが、今後どのような形で成長していくか、その成果がどうなっていくのかというところはまだ、本当にこれからなので、資料に書かれているように、うまく立ち上がったものが、うまく成長していくように、そこをきちんと見守る、あるいは支援する、あるいは、もし駄目だったときにも潰すのではなく、次頑張れというような感じで後押ししていくということが大事であり、また、選択と集中の観点から、よりニーズが多くて大きな成果が見込まれるものをこれからどんどん発展させていくということは、次のまちづくり、次の取組につながっていくという意味で、非常に重要であると思いますし、こういったところで取り上げていただいて、サポートしていただいて、我々も一緒にサポートしていくというのが大事なことかなと思いました。

また、「ICT（情報通信技術）の活用による市民利便性の向上」や、「迅速で的確な広報・広聴と市民に開かれた情報共有の推進」については、非常に進んでおりまして、本当に川崎市さんはすごいなというふうに思うところですが、少し時間がかかるのかなと思っているのが、「音楽や映像のまちづくりの推進」です。部会のおきから議論のあったところですが、なかなか市民の皆さんが、音楽のまちの環境が充実しているというふうに感じるとか、あるいは映像のまちの取組を知っていて評価できるという辺りの実感ということになると、まだその認識が薄いというところで、これはやはり文化にも関わる問題ですので、そう簡単に、あっという間に達成できるものとは思いませんけれども、これからバーチャルも含めて、感覚をも重要視するような、生活レベルがもう一つハイランクになっていくような変化が起こっていく、その代わり、基礎はきちんとやらなければいけません、そういう変化の時代になってきますので、引き続き、ぜひ川崎市の得意技と言いますか、音楽と映像、この辺りの産業についても十分に発達するように、あるいは市民の方がそれを十分に認知できるような、そういった支援や対策をお願いしたいなと思っています。ここだけがまだまだこれからという感じにはなっておりますが、本当にいろいろと検討していただいて、今後の対応方針についてもきちんとまとめていただいて、ありがとうございます。

川崎委員長

こういう政策というのは、一朝一夕にはなかなか浸透するものではございませんので、よりよいものにしていくために、我々第三者が、市民感覚の視点も含めて、施策の見直しに関する提案をさせていただきながら、より市民に浸透させていく近道を探していこうというようなところでこういった評価をしておりますので、今のご指摘のようなことは非常に重要なことだと思っております。

岩崎委員

私は、第1部会の取りまとめをしました。第1部会は、部会名が、子育て・教育・福祉部会です。子育て・教育・福祉は、その充実が国の安定感や国の未来を左右するようなどころがあると思われるものの、国の財政が厳しくなると最初に予算が削減され、また多くのお金を入れてもらえない領域です。反対に自治体では子育て・教育・福祉は住民の関心が高い領域であり、行政の真の力量を問われるところですので、ぜひ、今回検討していただいた点に善処いただき、市政において充実した施策を行っていただきたいと願っております。

その上で、今後のことではありますが、評価について今回の特殊な事情として感じているところをお伝えしたいと思います。施設の稼働率に関してですが、コロナ禍による国の要請によって施設を閉めざるを得なかった時期があり、評価指標による数値は全て激減となっています。たとえば、資料2の6ページにある施策2-3-2の「自ら学び、活動するための支援」の指標に関しては、参加者数、利用率、入館者数、利用

者数、つながりが増えた割合は、全てコロナ禍の状況においては数字を上げるのが難しい指標です。次の総括評価の際には、コロナ禍の自粛期間等を勘案し、状況に見合った評価をしてあげたいと思います。

また、今回の評価についてですが、適切な評価指標を設定することはもとより、数字の変動がある場合には、その背景要因を精査し丁寧に評価しないと、努力している担当者が気の毒との思いがありますので、その点もどうかご配慮いただきたくお願い申し上げます。

森総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

コロナ禍で入館者数等については、なかなか厳しい状況であるという点は、おっしゃっていただいたとおりであると感じてございまして、まず、この入館者数などについては、このコロナの影響がいつまで続くかというところははっきりとは分かりませんが、今後、第3期実施計画においても、これらの指標自体は基本的には継続という形が基本になってくると考えていますので、そのコロナの影響というところを踏まえてきちんと目標設定をしていくということが必要なかなと考えてございます。

ただ一方で、またさらに想定外の事態がその先に起こるかもしれないということがございますので、そういったときには評価としてはどうしても指標達成度ということでは下がってしまいますが、その原因というのを丁寧に説明していく、そういったことが重要であるというふうに思っております。

また、入館者数というのは、あくまでも、いわゆる初期アウトカムに近い指標ですので、この施策の目的や目標がどの程度達成されたかという部分で、最終アウトカムに近いような成果指標をどういった形で考えていけばいいのかというところが課題であるというふうに考えてございまして、それについてもあわせて、来年度の第3期実施計画の策定の中で検討させていただければというふうに考えているところでございます。

田島委員

第2部会はまちづくり部会ということで、幾つかの指標について、目標を達成できているかということと同時に、そもそもこの指標で本当に施策を評価できるのかというところの議論をかなりしてまいりました。

まず、「まち全体の総合的な耐震化の推進」については、成果指標である耐震化率について、新たな計画への改定に伴って、新たな目標値を設定されて取組を進められるということで、ベースラインのところ、更新などによって自然と耐震化された建物が増えていくという事情も踏まえた中で、それでも出遅れているところに対して注力していくというような取組ということで、今後の対応方針にも書き込んでいただいて、本当にどんどん難しいところだけが残されていく中で、ぜひ効率的な対応をお願いしたいというふうに改めて思った次第です。

それから、「地域環境対策の推進」については、部会では指標についてかなり議論をしまして、水質の指標に関しては、魚種などを活用して分かりやすいもので示していただくですとか、光化学スモッグ注意報の発令日数についても、最終的に発令されたか、されなかったかという最終結果のところだけではなく、そこに至る途中の中間的な指標を見ましょうというようなことも議論しましたがけれども、今後の対応方針では、かなり検討を進めていただいているようですので、ぜひ、これは川崎市が全国を引っ張っていく役割を持つような領域だと思いますので、どうぞよろしくお願ひしたいというふうに思います。

あとは、資料3のところ、町内会・自治会のことに触れられていますが、これまでは地域のすごく狭い範囲におけるリアルな対面での取組というものが期待されていた部分だと思いますけれども、今回、コロナ禍ということもあり、町内会・自治会だけが働くのではなくて、市から直接市民の方にアクセスできるような形も含めて、今後取り組んでいただくというような形で考えられているので、この部分は、ぜひこの機に進めていっていただきたいというふうに考えたところです。

最後に、「魅力にあふれた広域拠点の形成」については、混雑が問題となっているという議論が部会の中

では結構ありまして、今回、新たに、住んでいる人がどれくらい満足しているかというようなところを見ていくということで、今後の対応方針に書かれていて、非常に重要な視点だなというふうに考えました。そこで、おそらく実際に住んでいる方が満足されるかどうかということになると、ここは行政の縦割りの中でのまちづくり部会というよりは、むしろ保育園に入れるかなど、そういったかなり生活に密着した、例えば福祉や教育、そういった他の部会で今回扱ったような施策が、この満足度に対して、すごく影響を与えるようになっていこうというふうに考えますので、これは、まとめて市として、福祉や教育なども含めて広域的な拠点として、必要なインフラを整えていくというところで、これもあるべき方向に向かう取組というふうに考えておりますので、どうぞよろしくをお願いします。

森総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

田島委員から、最後のところで、居住者の満足度に関してお話がございましたが、確かにおっしゃるとおり、この満足度には、いろいろな施策が絡み、影響してくるというふうに考えてございまして、仮に成果指標として設定した場合についても、単純に上がった下がったということだけを見るのではなくて、何が満足度の変化につながったのかというところを、個々の意見などにも着目しながら分析をして、またそれをほかの施策にもフィードバックしていくということが大変重要であるというふうに思っておりますので、いただいたご意見を踏まえて、そういった方向で検討させていただければというふうに考えてございます。

米林委員

ご報告ありがとうございます。先生方のご意見も含めて、私もすごく同感ですので、ぜひよろしくお願いたします。

お願いといいますか、気づいた点が2点ありますので申し上げます。一つは、おそらく調査でいろいろと確認することが多いと思うのですが、例えば4ページの今後の対応方針の二つ目のところで、調査項目の見直しについても検討していきます、という記載があります。調査項目ももちろんそうですが、もう一つ、調査のやり方というのものもあるのかなと思っております。こういった定量的な数値目標というのは、全体は分かりやすいのですが、深掘りするとなるとなかなかつかみづらいところもあります。そういった意味で、定性的な声の拾い方というところについても、一緒に検討いただく必要があるのかなと思っております。理想だけ言えば、聞きに行くというよりも、上がってくるものをどう拾うかということもあると思っております、そういった調査のやり方に関して、一緒にご検討いただければと思いました。

もう1点は、すごく丁寧に書いていただいている、正直な感想としては、大変ですよ、というふうに感じました。今、コロナ禍で、特に行政に携わっている方というのは、すごく大変になっている方が多くなっているのかなと思います。私の知人からもそのように聞いていますし、ニュースでもそういうふうに取り上げられていますが、これは本来、私が申し上げることではないのかもしれませんが、身体と心の健康というのは大事だと思います。大変にならないよという言い方は変ではありますが、まずは、やはり職員の方自身が生きがいを持って、やりがいを持ってお仕事をされることはとても大切です。目標設定して達成するための取り組み方と言いますか、うまいやり方と言いますか、その部分は、私たちも含めてより一層配慮が必要だと思っておりますので、その点にぜひご留意いただければと思って拝見しました。よろしくお願いたします。

森総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

米林委員からいただいた、最初の調査のやり方については、詳しい中身はこちらのほうでも把握し切れていない部分がございますので、その部分については所管のほうにもお伝えさせていただければというふうに

考えてございます。

また、職員が大変という部分については、我々の総合計画では、どうしても、こういうことをやります、というような話ばかりになってしまうのですが、一方で、行財政改革の取組も進めておりまして、その中では職員の働き方改革についても課題として設定してございまして、職員の働き方を、例えばデジタル化することによって負担軽減ができないかといったところや、あるいは、業務のやり方に関しても、どういった改善ができるかというようなところについては、この間継続して取り組んでおりますので、引き続きそういった取組についても、先の実施計画とあわせて行財政改革プログラムというものを策定しますので、そういった中で考えていくことになるというふうに考えているところでございます。

松井副委員長

第3期実施計画に向けた指標等に関する考え方、それからコメントになりますが、おそらく今回のコロナによって川崎市は、財政面では、いままさに直面しているともいえますが、その悪化は避けられないのではないのでしょうか。現在の第2期実施計画では財政が安定している中で策定されています。それゆえに川崎市の良さのようなものが非常に出てきている計画とは思っています。しかし、おそらくこれからの数年間は、これまでの計画が前提としてきたような財政状況は担保できないのではないかと思います。そうなったときに、成果目標自体を少し厳しめといいますか、今もお話がありましたけれども行財政改革とうまくつながりながら、施策として事業の見直しをかなり厳格に進めていったほうがよろしいのではないかと思います。

こういうことを言うと、非常に嫌われることはよく分かっています。行革を声高にいうことは時流に合っていないのも分かっています。しかし、おそらく避けられないのは、やはり財政状況であると思います。指標の見直しの際にはその点も考慮に含めて進めていただきたいというふうに思います。

吉永総務企画局行政改革マネジメント推進室担当課長

委員ご指摘のとおり、今後、行財政改革、また財政的な面をどうしていくかというところは非常に課題となっております。ただ一方で、市民サービスへの影響については、いろいろと慎重に考えていかなければいけないと考えておりますので、そういったところについては、皆様のご意見や、庁内でもいろいろと議論した上で、どういった形で行っていくかというところを慎重に見極めたいと考えております。来年度は、行財政改革プログラムの策定がありますので、その中で議論しながら進めていきたいと考えております。

田島委員

先ほど、米林委員からもご発言がありましたけれども、コロナ禍におけるものも含めて、本当にいろいろな行政課題がありまして、さらに、歳入が減るだろうというようなことも踏まえると、こういった行政評価というものはどこでも取り組まなければならない非常に重要なことで、それは結構なのですが、一方で、評価する側でも幾つかのところに参加させていただくと、この評価に対する行政コストというものもなかなか大変だなということをしばしば感じるところです。

そういう意味で、成果を測るための指標というのを今回、それぞれの部局で見ましたけれども、市民からの意識を聞くとか、そういったものを各部局で個別にやられるのは、非常に効率が悪いというのが一つと、あともう一つ、先ほど言われた、誰に聞くかというバイアスの働き方に関しても、例えば、イベントに来た人に、このイベントを知っていますかと聞くのはおかしな話で、また、出かけてきた人に対してあなたは週何回お出かけしますかと聞くのと、家から出られない人にアクセスして聞いた場合とでは、そのパーセンテージは大きくぶれてくるわけですので、少し川崎市として、ある程度まとめて成果を測れるような、そういった指標を取るための安定的な調査インフラというようなものをお考えになって、そこに各部局から出てき

たこんな指標で測れないかというものを乗せて継続的にモニターできるような仕組みを考えられるといいのではないかと思います。さらに、これを、もちろん市役所の中でやってもいいとは思いますが、場合によっては、専門の業者などの力を借りることで、継続的に、誤差が大きくなるような調査の仕方ということに関してもかなり技術があると思いますので、そのような工夫していくことで、今回この項目は上下したけれども誤差と考えていいのかどうなのかというようなところも含めて、より精度が上がっていくのではないかなというふうに思いましたので、ぜひ、ご検討いただければと思います。

森総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

田島委員からいただいたご意見については、現在設定している成果指標の中で、市民の方にアンケートを取って、その結果を指標として活用しているものについては、全部ではありませんが、既に幾つかは私どものほうでまとめてアンケート調査をさせていただいておりますし、これについては、今後も継続して私どものほうで調査していくということを考えておりますし、またこれにプラスして、第3期実施計画において追加する指標に関しても、市民の方にアンケートを取るような手法のものがあれば、私どもの調査の中に項目を追加することで、まとめて調査していくということも考えていきたいと思っております。

川崎委員長

自然と全体総括に関する部分にも少し議論で及んできていますので、シナリオどおり区切るのはやめにしまして、フリーに議論いただきたいと思いますが、ほかの委員の皆さんは、いかがでしょうか。

星川委員

今回、資料5で、市民に対する意見募集の結果というものををご用意いただきました。ここで、私が注目したのは提出数です。2通ということです。川崎市は150万人の市民がいながら意見募集の結果が僅かに2通というのは、何とも寂しいなと感じました。我々の検討してきたことがあまり評価されていないのかなというような変な見方をしたのですが、この辺の数字については、どのように受け止められているのでしょうか。また、もう少し増やすための手だてと言いますか、募集の際の工夫の仕方みたいなものはなかったのか、その辺をお伺いしたいと思います。

森総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

今、星川委員からいただいたご意見についてですが、この意見募集については、パブリックコメント手続と同じような形でやってございまして、その結果として、確かに委員がおっしゃったとおり2通、8件ということで、決して多くないといえますか、少なかったというところでございます。

我々としても、これで当然いいというふうに考えているところではございませんで、次回、総括評価がございすけれども、それに向けましては、どういった工夫ができるかというところで、今のところはなかなかいいアイデアがありませんが、少し検討させていただければというふうに考えているところでございます。

三田委員

私は、第1部会と第3部会に今回参加させていただきました。

今後の対応方針について2点ほどコメントさせていただきますが、まず1点目、第1部会の施策2-3-2の社会教育振興事業についてですが、市民が得た学びの還元についていろいろと考えていただいているということで、特に、市民が学びの成果を活かす場づくりというところは、本事業のソーシャルインパクトがより深まるものだと思いますので、すごく素晴らしいと感じました。

あともう一つは、同じところになりますが、高齢者のデジタルデバインドに関する取組として、いろいろやっていたらということ、特にコロナ禍においては、こういった取組が非常に住民としてはありがたいなと感じました。それに関連して、第3部会の施策になりますが、4-2-5、5-1-2、4-8-3、これらにおいても、やはり、遠隔、ICT、コンピュータなどを活用することで、市民としても利用しやすくなりますし、特に4-8-3については、コンサートもオンラインでやっていたらということ、本当にありがたく感じております。

森総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

三田委員からいただいたご意見についてですけれども、デジタルデバインドの話ですが、国も含めて行政のデジタル化ということで、今後一層進めていかなければいけないというふうに考えてございます。一方で、デジタル化を進めていくことで、やはりそこになかなか馴染めない方もいらっしゃるということは、現実としてあるというふうに考えてございますので、そこをどのような形でカバーしていくのか、デジタルデバインド対策というところについては、非常に重要であると思っております。市民館等でこういった形で対応している取組もございまして、あるいは、行政手続においても全てをデジタル化ということではなくて、そういうデジタル化になかなか馴染めない方に対する行政サービスというところも一定程度確保していかなければいけないというふうに考えてございますので、その辺りのバランスを見ながら、進めていければというふうに考えているところでございます。

高尾委員

既に皆さんがおっしゃっていることではありますが、第1部会で今回いろいろと議論した施策は、多くが長期的な、総合的なアウトカムになっていて、特に市民全体の認識といったような指標が多かったわけですが、やはりその前の段階として、当事者のニーズや、当事者の満足度というところにもう一段階落とした方がいいのではないかとということをおっしゃっていただきました。今回の今後の対応方針では、そのことをきちんと反映していただいている、非常にありがたいなと思っております。

また、第1部会の施策は非常に広い内容となっていて、問題が山積みという中で、この施策の取組に対して、この指標でいいのでしょうかというふうに申し上げてきた部分に関しても、今後の対応方針の中で、指標の追加というようなこともご提案いただいている、非常にありがたいなと思っております。

ただ、先ほどの米林委員からご指摘がありましたように、それが皆さんのご負担にならないように、その辺りは精査して進めていただければと思ったところです。

あともう一つ、資料3に関して、非常に気になっていたのが、コミュニティづくり、市民創出による連携の仕組みのところ、資料3の3ページのところ、ソーシャルデザインセンターの話や、参加のハードルを下げるような敷居の低い形でのイベントというものを提案いただいております、これも非常に意義のあることだなというふうに思っております。おそらくこれから、こういうつながりをつくっていく、コミュニティをつくっていくときには、最初に小さな活動と言いますか、敷居の低い、参加のハードルの低いところから始めて、それが一過性で終わらないように、そこに参加した人たちが次の行動、先ほどの社会教育振興事業のところでもありましたが、学んだことを次にまた仲間づくりをして、あるいは、やっている団体とつないで、次に行くというふうなそういう循環、小さな行動から始まって次に行き、そこから、もう少しハードな活動になるかもしれないけれども、主体的に参加していくというふうな、そういう循環的な何か、つながりみたいなものをぜひ、実現していただくと非常にすばらしい地域になるのではないかと感じました。

森総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

参加のハードルを下げるような取組ということに関してですが、現場のほうではいろいろと工夫をして取り組んでいるところがございます。例えば、幸区では、子育て世帯を対象にしたスマホでスタンプラリーといったような取組をやっておりまして、そのスタンプをもらえるところが子育てに関連する施設などとなっていて、巡っていくことで、いろいろな子育て関連の施設がこういうところにあるんだということが分かるような仕掛けになっていて、あまり地域課題などという形で意識をしなくても、参加できるような形に工夫をしながらやっている取組がございます。

高尾委員

ありがとうございます。そういう形で次々に行くのが本当に素晴らしいと思います。

川崎委員長

ほかに、委員の皆さんからございますでしょうか。

なければ、最後に私の方から申し上げます。何人かの委員からご指摘がありましたように、コロナへの対応をどうするかというところはやはり全国どこの自治体においても難しい問題で、おそらく財政に関しても来年、再来年、コロナが収束していったときに縮小していくことが避けられないだろうということは何となく皆さん分かっていつつ、事業を展開していかなければいけないということですが、その中で、政策評価をどういうふうにするかというところがやはり重要で、やはり評価というと、どうしても「A」、「B」、「C」というところばかりに注目をしてしまっていますが、「A」ばかりがいいのかというと必ずしもそうでもなくて、今回の川崎市の評価をひととお見ると、かなりの部分が「A」だったかと思いますが、その中でも、市民の方々の市に対するイメージや、シビックプライドについてはなかなか高くないというところ、市役所の方々もそれぞれの部署で、それぞれの業務をこなしていらっしゃるって、それぞれでそれなりに成果を上げていると思うのですが、それがトータルで見ると、「A」にならないというところについては、やはりその間に何か問題がある、課題があるということだと思いますし、そういったことに気づくツールとして、やはりこういった全体を通した評価というものが重要なのかなというふうに思っています。

今回、資料2では、委員会の部会でご議論いただいた部分について、かなり丁寧に対応していただいているので、今後の個別計画を検討する際にそういった視点を入れていくというご回答も幾つかいただいておりますので、そういった点では評価をやる意義が非常に高かったと思っております。おそらく個別計画では、それぞれが、それぞれの方法で一生涯懸命やっていくのだと思いますが、これがトータルでシビックプライドや、コミュニティといったところに入り込む意識をいかに高めるかというところが、今後の大きな課題になるのだと思いますし、やはり「C」が連続でついているところを、どうしていくのかというところが、これは担当課の問題ではなくて、川崎市の問題なのだろうというふうに思います。そういった課題を浮き彫りにするという意味においては、この評価はそれなりに役に立っているのかなというふうに感じているところがございます。

個々の施策については部会でも議論させていただいて、今後の対応方針のほうもしっかりとまとめていただいているというふうに思いますので、今後は、さらに、トータルで見たときに、横串を差したときに、市民の方々に満足していただけるか、そういったところに少し力点を置いたことを考えていくことが必要なのかなというところが、この委員会として一つ大きくメッセージとして出せることなのかなというふうに思っております。

ほかに、委員から何かございますか。

なければ、議題としてはここまでとさせていただきます。

次に、その他としまして、次年度からは、この委員会としては、第2期実施計画の総括評価に向けての審議の準備を進めていくということになります。この間、第2期実施計画の中間評価の審議に当たって、委員会や部会をそれぞれ開催してきましたけれども、全体を通じての感想や、部会の進め方、説明の方法などに関して、来年度以降の運営に反映させていただきたいというふうに思っておりますので、皆さんからコメント等がございましたら、比較的フリーにコメント等をいただけるとありがたいと思います。いかがでしょうか。

では、皆さんが考えている間に、私からお話をさせていただきます。

全体としてというところがやはり大事であるというところを先ほどお話させていただきましたけれども、確か、市民満足度調査か何かで市への愛着度を調査した際に、自分の住んでいるところについては愛着を感じるけれども、川崎市という大きなところになると少し遠ざかるというような分析結果を以前お示しいただいたかと思うのですが、そう考えるとシビックプライドというのは、そこまでネガティブに考えなくてもいいのかなと思ったりもします。ただ、これを上げていきたいということなので、一つはやはり環境というところが足を引っ張っているという側面があって、つまり、公害のまちというイメージをつくられてしまったというところがあって、ただ、今は、環境先進都市と呼ばれるような都市に生まれ変わってきたわけですから、そのところをしっかりとアピールしていくということが重要なのかなというふうに思っております。

また、治安については、なかなか難しい部分ではありますが、これも確かデータでお示しいただいたと思うのですが、犯罪認知件数については高くはなかったと記憶しております。やはり特に大きな事件がどんどん起きてしまっているところが強く影響している可能性が高いので、治安はそれほど悪くないよということもアピールの必要性があるかなと思います。やはりイメージ先行で、何となくイメージが悪いというような、この何となくというのが一番怖くて、実際はそうではないのに、イメージだけで語られてしまうところが、いろいろな局面でありますので、ここのところは、やはり情報発信が重要なのだと思います。

それから、音楽のまちや映像のまちについては、市民の方にはあまり浸透していないという結果になってしまったわけですが、業者の方は意外と周りを見ていらっしゃっていて、新たに施設を造るときに、そういったものをイメージしたものをどんどん造ってくるというところがあったりします。これは、経済学でゲートウェイ機能という言い方をしますが、簡単に言うと、横浜の中華街みたいなものをイメージしていただくといいと思うのですが、あそこに新たに土地が生まれたときに、フレンチのレストランをわざわざつくろうという人はいないだろうというように、つまり、まちのイメージをつくっていくことで、だんだんそういったものが集積していくということがあります。川崎の駅前というのは、だんだんそういったところに近づきつつあるのかなと、外目に見ていると思うところもありますので、まちのイメージをつくるという意味においては、やはり発信をし続けるということが結構大事なのかなと思います。効果があるかないかというよりも、市長さんを中心に発信をし続けるということによって、それなりに効果が出てくるのかなというふうに思いますので、そういったところについても、少し何らか評価ができるといいのかなというふうに感じたところです。これはあくまでも感想です。

米林委員

先生方や皆さんの意見を聞いて、すごく触発されたので、気がついたことを少し申し上げます。

先ほど、松井委員からお話がありましたが、確かにお金の話は大事です。結局資源が限られているので、資源というのは、ヒト、カネ、時間かなと思っていますが、これらをいかに効果的・効率的に活用していくかという点において、これから成果指標をつくる時、また、その目標を達成するために取り組んでいくときにも、やはりお金や時間がかかり過ぎても良くないと思いますので、この部分は意識しなければいけないというふうに改めて私も感じました。

効果・効率化に関連して二つ目なのですが、すごく川崎が好きな人、つまり、川崎市ファンみたいな方々をうまく活用するというのがあるかなと思います。私のイメージでは、フロンターレやブレイブサンダースがすごく好きな人は、川崎にかなり愛着があるのではないかなと。その人が友達を連れて等々力に行くとか、そういったつながりで川崎が好きな人が増えていくということが期待できるのではないかなと思います。市のほうで、川崎のファンの人の声をうまく捉えたり、行動をきちんと見たりすることで、結果的にシビックプライドの向上などにつなげられるのではないかなと感じていて、そういう意味で、川崎をすごく好きな人に目をつけるというのはあるかなと思います。また、もう既にやっつけていっしょとは思いますが、もっと民間の企業や、そういったチームと連携していくということもあるかなと思います。皆さんの力だけではなくて、川崎に関わっているいろいろな人の力を活用するという意味でもあるのかなと感じました。

それから、先ほどの幸区の例はすごくいいお話だと思いました。市民の人の行動にどこまで入っていけるかが大事と思っていて、例えば、私も保護者として小学校に行くと、そこでいろいろな接点生まれることがあったり、あるいは、通勤中に目に入るなど、行政がうまく情報を発信することで市民が普段の行動の中で自然と情報に触れられるようにという視点で考えていただけると、意外とチャンスは広がるのかなと思いましたので、今後、検討いただければと思います。

最後にもう一つだけ、先ほどの川崎委員長の話を伺って、私も気になったのですが、総合評価と1個1個の評価の関連ということを考えたときに、総合評価がやはり大事かもしれないと思うところがあります。総合評価に影響するものをどう見極めて、各指標の中でもどのように優先順位をつけていくかという議論がもしかすると必要なかもしれないと感じました。

とても勉強になりました。長々と失礼いたしました。

三田委員

一つは質問で、もう一つはコメントなのですが、先ほど川崎委員長がおっしゃっていた、シビックプライドと市民参加のところに関して、川崎市というのは、同規模の同じような都市圏の市と比べて、市民参加は少ないほうなのでしょうか、ということが質問です。それから、コメントとしまして、やはり市民参加をするということはシビックプライドにつながっていくのではないかなとすごく感じていまして、私も今回、市民として貢献したいという気持ちでこちらの委員会に参加させていただいたのですが、この委員会に参加してみて、やはり川崎市のことがすごくよく分かって、シビックプライドにつながったというふうに感じていますので、その辺りのことについてお伺いできればと思います。

森総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

今、手元にそういったデータ等がありませんので、市民参加がほかの都市と比べて多いか少ないかというご質問には即答できないところなのですが、三田委員がおっしゃったとおり、いろいろなところに参加することによって市への愛着が高まっていくというところは、そのとおりであるというふうに思っておりますので、川崎委員長からも横串という話がございましたけれども、いろいろな施策の取組にどのように横串を差して総合的に推進していくかという視点は非常に重要であると思っておりますので、そういった視点も念頭に置きながら、第3期実施計画の策定を進めていきたいというふうに考えているところでございます。

ご質問の答えができず、申し訳ありません。

松井副委員長

予定の時間を過ぎていますが、基本的なことで申し訳ありません。この委員会の残りの任期の間の業務は、具体的に何を想定されているのでしょうか。今年度、中間評価をやるというのは、予め伺っていました。残

りの令和4年の11月までにはまだ1年以上あります。市としては、我々に何を期待されているのでしょうか。その点を明確にさせていただかないと、コメントもできないと思います。

森総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

今回、任期3年という形でお願いをさせていただいてございまして、その中で、第2期実施計画の中間評価と総括評価のそれぞれについて、外部評価をしていただくということをお願いさせていただいたところがございます。今年度については、中間評価という形で一回りしたところがございますので、後半戦の総括評価に向けて、委員会の運営方法などについて、こういうふうに改善した方がいいのではないかとというようなご提案をいただければという趣旨で、その他としまして、ご意見をいただいているところでございます。

松井副委員長

今後は、我々は総括評価をするということですね。

森総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

任期の3年の中で、中間評価と総括評価の外部評価をそれぞれしていただくということで、今回3年という任期とさせていただいているところでございます。

松井副委員長

第2期は、第1期のやり方を踏襲するというのでしょうか。

森総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

おっしゃるとおりで、第2期についても、第1期と同様に、中間評価と総括評価をやっていただくという形でございます。

松井副委員長

そういった案を事務局から出していただいて、議論することがまずはよいのではないのでしょうか。ぼやつとした議論をしても、あまり生産的ではないと思います。

森総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

具体的には、来年1月に総括評価における進め方について、ご提案をさせていただくというところがございますが、今回、中間評価の審議が終わったというタイミングになりますので、この場でご意見やご感想を伺えれば、そういったものを踏まえて来年度、ご提案をさせていただきたいという意図で、本日、その他としまして、このような枠を設定させていただいたところでございます。

松井副委員長

趣旨は分かりましたが、具体的な案がない中ではおそらく議論できないと思います。時間も超過していますので、ほどほどにお願いします。

森総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

すみません。

川崎委員長

すみません。ももとの予定時間が短すぎたかなというところではありますが、ほかに、皆さんからご意見はありますでしょうか。

田島委員

時間も限られているので簡単に申し上げますが、今回やってみて、我々の仕事というのは、川崎市の通知表をつくるということなのだろうというふうに感じました。

私も8年ぐらい前まで10年間ぐらい川崎市民でしたが、川崎市というのは、市役所は遠いですし、目の前にあるのは区役所だったりしますので、市民の方のアイデンティティーとして、どれくらい川崎市を地元というふうに見ているのか、むしろ、何々区と言われる方が私のうちがあるところだというふうに地元として感じるのではないかとというようなところで、そこには大分距離があるように感じています。そういう意味で、シビックプライドについては、川崎市が好きかという少し微妙ではあるけれども、何々区と言われれば好きだということもあるのかなと、つまり、例えば区ごとにそれぞれ聞いてみて、人口で加重して平均点を出すと、川崎市についてどうですかというふうに聞いたときの平均点と大分ずれが生じるというようなことが起こりうるのではないかとこのように感じたところです。

川崎市はすごく難しい市域の形をしているというふうに感じますので、その点は、一つ踏まえておかれるとよいと思います。物によっては、川崎市という聞き方で聞くのが最も適切とは言えないものもあるのではないかと思います。お住まいの地域というふうに一般化される場合、それを川崎市と捉えるのか、何々区と捉えるのかによって、大分答えが変わってくるものもあって、実はそれで目的を達成できるという可能性もあるかと思っておりますので、そこについては、ご配慮いただければというふうに思います。

川崎委員長

指標については、どれを選ぶかというのはおそらく答えは出ないのだと思いますので、いろいろな指標を使いながら、実態を表しているかどうかというところを評価していくしかないのだろうというふうに思っております。ただ、きちんと認識していただいていないというところが課題であるとすれば、やはりそこを解決するような方策を取ってもらうために、我々は評価をしているというふうに認識すべきかなというふうに思います。

それから、田島委員は通知表とおっしゃいましたけれども、私のイメージでは、そこまでのものではなくて、健康診断の評価ぐらいで、要経過観察とかですね、その辺かなというふうに考えています。若い方にはあまりピンとこないかもしれませんが、健康診断で「B」や「C」がついているから何か悪いというわけではなくて、そこは気をつけましょうね、という感じで受け取ってもらったほうが気楽かなと思います。

おそらく、認知の問題が結構大きくて、例えば市民参加についても、皆さんかなり重たく取っているところがあって、実はよく聞いてみたら、子供のサッカーチームで活動しているなど、いろいろな形で何らか地域に関わっているはずなのですが、その部分というのがあまり認知されていないというところは、やはり課題かもしれないと思っています。

今回は、そういった課題を洗い出すといった意味においては、それなりに皆さんからご意見をいただけたのではないかなというふうに思っております。

久野委員

今までの議論は本当にそのとおりで、皆さんがおっしゃるとおり市民目線や、市民参加、それからファンの人をうまく捕まえるというようなことは大事だと思いますし、川崎市がいいとか、川崎市で遊びたいとか、

そういうものは元々強いものがあるので、みんな自然と引き寄せられてくる面もあると思います。そして、こういう一人ひとりの動き、個人というものが横軸にあるとすると、これからは縦軸がより重要になると思います。

それは何かというと、一つは、先ほども出ていましたが、川崎市は環境先進都市ということで、これから2050年のCO2排出実質ゼロに向けて取り組んでいく、これは、世界的な課題ですから、これをやっているぞと言うだけで全然イメージが変わってくると思います。それぞれの目標はどれも大事ですから、どれがいいとか悪いとかというよりも、そういう断トツの何とか都市すごいぜみたいなものを一つつくるということが非常に大事だと思います。

もう一つは、Society 5.0ということで、先ほど川崎市のIoT、ICT、AIは相当進んでいるなどということも申し上げましたが、これからはバーチャルとリアルな世界の融合系になっていくわけなので、その中で安心・安全をどういうふうにやっていくか、技術開発、研究開発がどんどん進んでいく中で、安全な社会、安心な社会をいかに構築していくかというところを、何とか研究所みたいなところも適当に活用しながら、うまく深掘りすることで、断トツの縦軸をばっと出して、横軸はオール参加型、みんな一人ひとり大事、こういったような戦略的な行政をしていただけるといいかなと思います。

川崎委員長

ありがとうございます。ほかの委員の皆さんもよろしいですかね。

それでは、本日の議事は以上でございます。

進行を事務局にお返しいたします。

森総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

ありがとうございました。

予定の時間を過ぎてしまいまして、申し訳ございませんでした。

次回の委員会についてでございますが、先ほどもお話しさせていただいたとおり、来年の1月頃を予定してございまして、第2期実施計画の中間評価の振り返りと総括評価に向けた委員会の進め方や、審議対象施策の選定基準等についてご審議いただくことを予定しているところでございます。

最後に、閉会にあたりまして、都市政策部長の宮崎より、皆様にご挨拶を申し上げたいと思います。

宮崎総務企画局都市政策部長

都市政策部長の宮崎でございます。

本日は年度末のお忙しいところ、また、なかなかコロナが収まらない状況の中、ご出席いただき、ご議論いただきましてありがとうございました。

先ほども議論の中でありましたけれども、来年度は、第3期実施計画の策定年度となっております、これは4か年の計画でございますけれども、これだけ社会変容がある中で、やはり少し先を見ながら、どういったバランスでやっていくのかということを議論しなくてはいけないと思っております、そういった意味で、今日の議論も踏まえまして、このような状況の中で、どうやって際立たせるところとそうではないところとのメリハリをつけていくかということが、市民に対する説明ということも含めまして、大事になってくるのかなというふうに思っております。

次回の委員会まで少し間が空くところではございますけれども、このような変化の中で、評価をどのように考えるかという点も結構難しいと考えてございまして、場合によっては、個別にご相談させていただくこともあるかもしれませんが、その際は、ぜひよろしくお願いいたします。

それでは、また次回、引き続き活発な議論と審議のほど、よろしくお願ひしたいと存じます。
本日は、どうもありがとうございました。

森総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

以上で、令和2年度第3回川崎市政策評価審査委員会を終了させていただきます。
どうもありがとうございました。